

金沢大学法学類月報

第 24 号 2015 年 11 月 25 日発行

編集・発行：金沢大学法学類広報委員会

協力：金沢法友会法学類広報プロジェクト



木々の色づきも美しい季節となりました。法学類月報第 24 号では、木村高宏先生のご紹介、フランストゥールーズ第 1 キャピトル大学との調印式の模様、語学研修に参加した学生の寄稿をお届けします。



◆連載◆ 法学類の先生 第 21 回 木村高宏先生（公共政策論）

公共政策論を担当する木村です。……とか、政治学各論 B を担当する木村です、といった感じの始め方はだいたい講義の初回にするのですが、そこから雑談に入ることはほとんどない（大阪人がみな面白おかしく話す技術を持っているわけではないのです、残念ながら）ので、雑文を続けるのはなんだか少し変な感じです。

さて、私が金沢大学法学部に着任したのが 2004 年ですのでかれこれ 10 年以上金沢に住んでいる計算になりますが、前段で図らずも書いたように依然として自分は大阪人であるというアイデンティティのもとに日々を送っているようです。積雪に驚くとか驚かないとか、寿司屋でなんとなく鮪よりも鰯のトロに親しみを感じるとか、そういうのはきっと核の部分には関係のないことなのでしょう。ちなみに、何かと混ぜて、なら納豆も食べられるようになりました。納豆はべつに金沢とは（たぶん）関係ありませんが、ここ数年の私の成長の証です。

納豆といえば、何年か前に講義中の雑談で、豆腐（冷奴）には意外にメープルシロップがイケる、という話をした時の学生の皆さんのドン引きの顔が忘れられません。固定観念を乗り越えれば新しい世界が拓けます。若いうちから保守的になると世界は狭まる一方です。ぜひ「新しいもの」を意識的に希求してください。とはいえ、私は大阪人のソウル・フード「たこ焼き」に関してはわりと原理主義の立場です。ソーセージ入りピザボールみたいなものは認めません、あしからず。だって「たこ焼き」なんだから、タコは必須でしょう。

さて、その大阪人たる私が当地金沢で事あるごとに違和感を持つのが、「おもてなし」という言葉あるいは概念です。私にとって「おもてなし」とは相手に合わせるという姿勢です。他方、どうやら当地の「おもてなし」とは自分自身がきちんと接遇作法を守る姿勢を指すようですね。このギャップが今後……おいこら何をする。やめ r ……

Current News

最近の出来事から

仏トゥールーズ第 1 キャピトル大学と研究協力協定を調印

2015 年 10 月 15 日、トゥールーズ第 1 キャピトル大学の Pierre-Marie Egéa 副学長、Jacques Larrieu 教授及び Alexandra Mendoza-Caminade 先生ご出席のもと、金沢大学法学系・法学類との間での研究協力協定書の調印式及び記念講演が行われました。

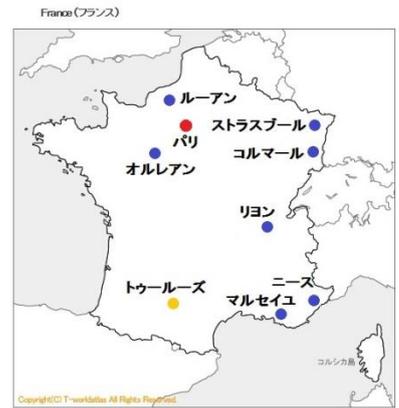


トゥールーズ第1キャピトル大学は、フランスで最も古く、世界でも2番目に古い歴史のある大学とされています。本学の山本博国際担当副学長及び名古屋功系長の挨拶、そしてEg a副学長及びLarrieu教授の祝辞の後、Eg a教授と名古屋法学系長、石田道彦法学類長が協定書へ署名し、両校の提携が成立しました。調印式は、多数の教員、そして学類生・大学院生の列席のもと、厳かに、そして華やかに執り行われました。

調印式に引き続き、Alexandra Mendoza-Caminade先生による「伝統的ノウハウの活用と保護：伝統的ノウハウに迫りつ

つある脅威」と題する記念講演（民事法研究会と共催）が行われました。同講演は、伝統的知識や遺伝的資源等の伝承された知識等について、生物多様性条約との関係を中心に現状を紹介し、喫緊の課題を指摘する先進的なものでした。同講演はフランス語でなされましたが、羽賀由利子教員による流麗かつ的確な通訳があったため、出席した学生達も熱心に聞き入っていました。講演内容について、本学の教員・学生から出された様々な観点からの質問をめぐり活発な議論が交わされ、記念講演は盛況のうちに終了しました。

高 秀成（法学類准教授・民法）



オルレアン大学の語学研修に参加して



私は、この夏休みにフランスのオルレアン大学での3週間の語学研修に参加してきました。オルレアンは、英仏百年戦争の際のジャンヌ・ダルクによる解放で知られています。

この研修期間中、最も有意義であったことはホームステイ体験です。私を受け入れてくれたホストファミリーは、70歳の老婦人でした（親しみを込めて「おばあちゃん」と呼んでいました）。伝えたい内容をうまく組み立てられない時も、私が言葉を紡ぎ出すまで待ってくれるおばあちゃんの温かい人柄はとても印象的でした。また、研修で学び、練習した表現を、その日の放課後には本屋の店員さんやバス停で待ち合わせている人に話しかけて、会話で実際に使ってみる努力をしました。これにより、表現を定着させるだけでなく、学習内容を活かすことができているという嬉しい実感を持つことができました。

あっという間の3週間でしたが、フランス語を通じておばあちゃんをはじめ、その土地の人達と交流し、パリ、リヨン、ストラスブール、コルマル、ルーアンといった、様々な都市の空気にも触れ、存分にフランスを満喫しました。この体験を糧に、今後、フランス語のさらなる向上のみならず、自分の進路に向けて清新な気持ちで取り組みそうです。

勝田大貴（法学類3年）



- 法学類の学生、卒業生、教員に関係するイベント等の情報を、ぜひお寄せください。
- 関係者の皆様のご寄稿を歓迎します。採用された方には、法学類グッズを進呈します。
- 本誌のバックナンバーは、金沢大学法学類 Web サイトに掲載していますのでご覧ください。<http://www.law.kanazawa-u.ac.jp/home/geppo>
また、メールでの定期配信（無料）をご希望の方は、金沢大学人間社会系事務部 学生課 法・経済学務係 (n-hkgaku@adm.kanazawa-u.ac.jp)までお申し込みください。
- お読みになってのご意見ご感想は、上記メールアドレスまでお寄せください。